

2 ある年の6月12日は、土曜日でした。

(1) その年の7月12日は、何曜日になるでしょうか。

(2) その年の8月15日は、何曜日になるでしょうか。

(3) その年の9月1日は、何曜日になるでしょうか。

(4) その年の10月10日は、何曜日になるでしょうか。

1か月は何日でしょうか。また、曜日は7でわって考えましょう。

3 ある年の5月1日は金曜日でした。

このとき、次の日付は何曜日になるでしょうか。
ただし、うるう年は考えないものとします。

(1) よく年の5月1日

(2) よく年の4月1日

(3) 前年の4月1日

5月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1年は365日(うるう年は366日)です。
曜日は、7でわり算をして考えましょう。

(答え)

(1)	曜日
(2)	曜日
(3)	曜日

4 算数コロンブス

おはじきを子どもに3こずつ配ると11こあまり、この人数の2倍より5人少ない人数の子どもに2こずつ配ると3こたりませんでした。このときの、はじめの子どもの人数と、全部のおはじきのご数はいくつでしょうか。

考えよう 「この人数の2倍より5人少ない人数の子どもに2こずつ配ると3こたりませんでした。」の部分をつかりやすく書きかえることを考えてみましょう。____の部分に当てはまる数字を書き入れましょう。

①まず、「5人少ない」の部分を考えます。2こずつ配るとき、
2倍より5人少ないなら3こたりない
↓
それでは、
もしも、ちょうど2倍なら____こたりない

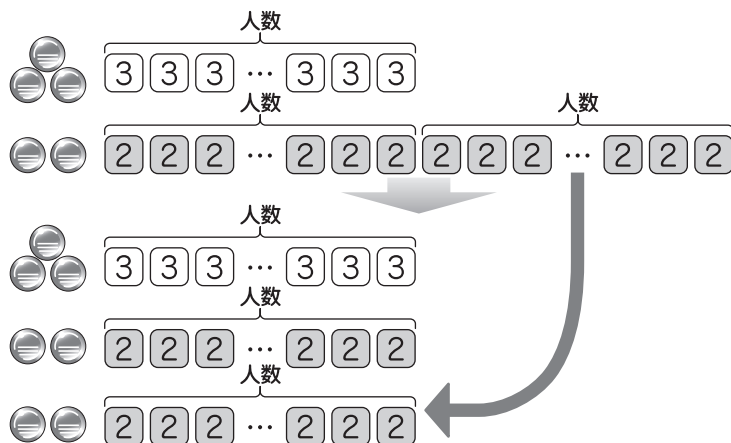
5人ふえるのだから、
もったたりないね。



①、②のことをふまえて、書きかえた問題を面積図にかいてみましょう。

面積図

②次に、2倍の人数を3こずつ配ったときと同じ人数に直して計算する方法を、工夫してみます。



上の図のように考えると、「この人数の2倍の人数の子どもに2こずつ配る」ことは、計算上、「3こずつ配ったときと同じ人数の子どもに____こずつ配る」とことと同じだとわかります。

(答え)

子ども	人
おはじき	こ



P 58

8

(1) 3と4の最小公倍数で、12日後。

12日後

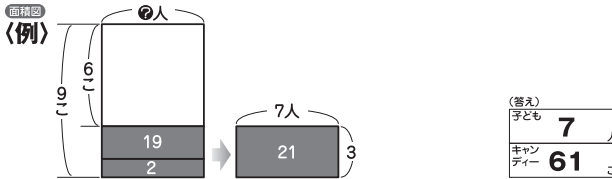
(2) 7月20日の12日後は、(7月は31日までであるので) 8月1日。

8月1日

4 算数コンプス

考えよう 考えられる人数 5こ、6こ、7こ、8こ 〈順不同〉

- 書きかえ
- ①「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると4こたりない。」
 - ②「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると3こたりない。」
 - ③「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると2こたりない。」
 - ④「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると1こたりない。」〈①～④は順不同〉



〈解説〉9こ配って他の人より少ないから8こ以下。半分より多いから、5, 6, 7, 8このどれか。
5, 6, 7, 8こということは「いくつたりないか」に書きかえると、それぞれ4, 3, 2, 1こ。

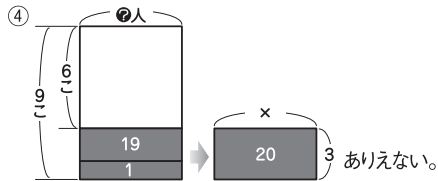
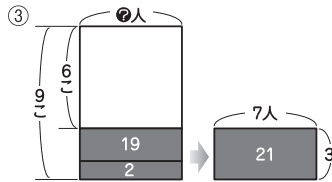
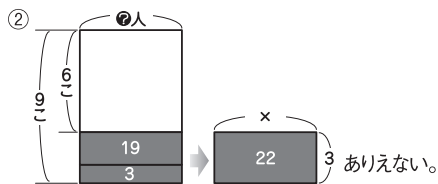
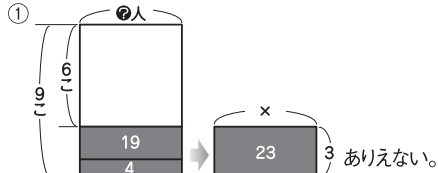
そこで問題は、

- ①「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると4こたりない。」
- ②「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると3こたりない。」
- ③「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると2こたりない。」
- ④「6こずつ配ると19こあまり、9こずつ配ると1こたりない。」

の4つの場合に書きかえられる。

それぞれについて、面積図をかくてみるとよい。

このとき、人数は、分数や小数にならない(わり切れて整数になる)ことに着目する。



③のみ当てはまることがわかる。人数は7人。6こずつ配って19こあまるので、キャンディーは $6 \times 7 + 19 = 61$ こ。

24日目

P 59

1

- (1) 7
- (2) 1
- (3) 2
- (4) 3
- (5) 4
- (6) 5
- (7) 6
- (8) 6

〈解説〉(8)この6月のカレンダーの、よく月(7月)の火曜日は、6, 13, 20, 27となり、6日よりあとを7でわると、あまりは6。

P 60

2 (1) 月曜日 〈解説〉

- (2) 日曜日
- (3) 水曜日
- (4) 日曜日

(1) 7月12日は、30日後なので、

 $30 \div 7 = 4$ あまり2だから、土曜日の2日後で、月曜日。(2) 8月15日は、 $30 - 12 + 31 + 15 = 64$ (日後)なので、 $64 \div 7 = 9$ あまり1だから、土曜日の1日後で、日曜日。(3) 9月1日は、 $30 - 12 + 31 + 31 + 1 = 81$ (日後)なので、 $81 \div 7 = 11$ あまり4だから、土曜日の4日後で、水曜日。(4) 10月10日は、 $30 - 12 + 31 + 31 + 30 + 10 = 120$ (日後)なので、 $120 \div 7 = 17$ あまり1だから、土曜日の1日後で、日曜日。

3 (答え)

- (1) 土 曜日
- (2) 木 曜日
- (3) 火 曜日

〈解説〉

(1) よく年の5月1日は、365日後なので、

 $365 \div 7 = 52$ あまり1だから、52週と1日後で、土曜日。

(2) よく年の4月1日は、4月は小の月だから、

 $365 - 30 = 335$ (日後)なので、 $335 \div 7 = 47$ あまり6だから、47週と6日後で、木曜日。

(3) 前年の4月1日は、

 $365 + 30 = 395$ (日前)なので、 $395 \div 7 = 56$ あまり3だから、56週と3日前で、火曜日。

4 算数コンプス

- 考えよう
- ① 2倍より5人少ないなら3こたりない
ひそれぞれ、
もしも、ちょうど2倍なら **13**こたりない
 - ② 上の図のように考えると、「この人数の2倍の人数の子どもに2こずつ配る」ことは、計算上、「3こずつ配ったときと同じ人数の子どもに **4**こずつ配る」ことと同じだとわかります。

- (答え) 子ども 24 人
おはしき 83 こ

〈解説〉

① 1人に2こずつ配るから、もしちょうど2倍なら「2倍より5人少ない」ときよりも5人多いので、 $2 \times 5 = 10$ こさらにたりにくなる。

①, ②から、「この人数の2倍より5人少ない人数の子どもに2こずつ配ると3こたりませんでした。」の部分は、「同じ人数の子どもに4こずつ配ると13こたりませんでした。」と書きかえることができる。これを面積図にすると、下のあまりとたりない部分を合わせた長方形のたては1こ分、横は24人となる。3こずつ配ると11こあまるのだから、 $3 \times 24 + 11 = 83$ こ。

